

# おしゃれ展プロジェクト： ユビキタス・ビューティーに関する研究と展示会の開催

境 賢太郎

慶應義塾大学 政策・メディア研究科 修士課程 1年

{ksakai@sfc.keio.ac.jp}

## 1. はじめに

本報告書では、2008年2月15日(金)～17日(日)にて実施された、安村研究室を主体としたインタラクティブデザイン・ラボ主催による展示会「おしゃれ展～私をキレイにするユビキタス～」<sup>1</sup>の開催概要と、その研究成果を報告する。

## 2. 目的

本プロジェクトの目的は、次の通りである。

- 日常生活を支援するユビキタス技術活用の検討と、そのインタラクティブデザインの提案。
- 展示会開催による、生活空間におけるユーザー評価と対外発表の実施。
- 産業界との共同研究を通じたプロトタイプを試作と、将来的な実用化の検討。

## 3. 展示会の開催報告

### 3.1 開催概要

本展示会の開催概要は次の通りである。

- 開催期間： 2008年2月15日(金)～17日(日)
- 会場： ギャラリー・リスティ青山(東京都港区)
- ウェブページ： <http://oshare-ten.jp/>

### 3.2 趣旨

本展示会の主旨は、家庭やアパレルショップを対象に、日常生活のなかでファッションコーディネートや美容促進にまつわるユーザーの問題解決を支援するサービスとそのシステムを開発し、実際の生活空間で活用する上で包括的なライフスタイルを提案した。また、会場では来場者が実際に展覧作品に触れ体験できるデモンストレーション型の展示と、同時に各作品のユーザー評価を実施した。



図1. 会場正面入り口



図2. 展示会場

### 3.3 出展作品

本プロジェクトでは、日常生活を対象とした新たなインタラクティブデザインの提案とそのプロトタイプを試作した。また、次の3つの領域(ファッション、美容、ウェアラブルデバイス)を中心としたサービスの提案とそのシステムを開発し、展示会にてその成果発表を行った。

#### (1) ファッションを支援するインタラクティブデザイン

近年、ファッションを取り巻く産業や日常生活の課題として、現代人の服装や嗜好の多様化が挙げられる。それに伴い、日々の洋服選びや、店頭で消費者自身に合った商品を探し出し、ファッションコーディネートを検討した商品の購入を困難にしている。こうした問題を解決するため、本プロジェクトでは、アパレルショップ内での試着履歴と RFID 技術の応用、そして毎日撮影される個人のファッションスナップ写真など、日常生活のなかで無意識のうちに蓄積されていくライフログを活用し、以下のサービスを提案し、その試作を行った。

- iDrobe、おねだリスト、suGATALOG

#### (2) 美容促進とスマートトレーニング

ダイエットやフィットネスを支援するユビキタス技術の応用例として、本プロジェクトでは、3次元加速度センサなどセンシング技術の活用による、日々の美容促進とフィットネスを支援するスマートトレーニングを提案し、そのプロトタイプを試作した。

- 語ルアレイ、足うた

また、日常生活のなかで美容促進を支援するサービスの提案として、上記のプロダクトの使用による日々の体型の変化を常時記録し、蓄積されたライフログの活用により、ユーザー自身の体型維持に対する意識の喚起を促す鏡型アプリケーションを提案した。

- ミラフィット

本プロジェクトの産学連携の事例として、髪型の仕上がりが具合を記録し、ヘアカルテを生成する美容院向けシステムを試作し

<sup>1</sup> おしゃれ展オフィシャル WEB サイト : <http://oshare-ten.jp/>

た。尚、本作品は、安村研究室メンバーを中心に、フィグラ株式会社との共同研究の成果として企画された。

- ミラカルテ

### (3) 情報を着こなすウェアラブルデバイスとコミュニケーションの提案

新たなウェアラブルデバイスの提案として、本プロジェクトでは、近年アップルの iPod などによる“音楽を携帯する”スタイルに代表されるように、ユーザーのしゃべる言葉の断片を“衣服の一部”として着こなす新たなファッションのスタイルを提案した。また、遠隔地にいる自分の会いたい人とのコミュニケーション頻度を可視化したアクセサリを提案し、これらのプロダクトを試作した。

- シャベリカス(着用型と据え置き型の2タイプを出展)
- アイタイキモチ

### 3.4 ユーザー評価の実施

また、展示会の開催にあたり、実際に来場者が作品に触れてサービスを体験できるデモンストレーションを通じて、作品のユーザー評価を実施した。また、より効果的なユーザー評価を実施する上で、今回会場であるギャラリーと展示ブースを、実際のアパレルショップと住居空間に見立てた会場レイアウトを施した。そして、各作品で使用したコンピュータなどハードウェア類を一切隠蔽し、ユーザーがコンピュータを特別意識することなくサービスを体験できる展示環境を整えた。



図 3. 作品の展示模様

### 3.5 講演会の開催

展示会の開催期間中に、ファッションデザイン・マーケティング・ウェアラブルコンピューティング研究の専門家を招待した講演会を計 3 セッション開催した。招待パネリスト、講演テーマについては次の通りである。

#### (1) 2月15日(金) 15:00~16:00「誰のための“おしゃれ”? -男のおしゃれ・女のおしゃれ-」

- 山本 貴代(博報堂生活総合研究所 上席研究員)
- 安村 通晃(慶應義塾大学 環境情報学部 教授)

#### (2) 2月16日(土) 14:30~16:00「デザインする心」

- 脇田 玲(慶應義塾大学 環境情報学部 准教授)
- 波佐間 明美(オリジナル帽子屋 imeka デザイナー)
- 安村 通晃(慶應義塾大学 環境情報学部 教授)

#### (3) 2月17日(日) 15:00~16:00「ユビキタスでおしゃれになれるか？」

- 横山 雅子(株式会社マックス・ヴァルト研究所 代表取締役)
- 安村 通晃(慶應義塾大学 環境情報学部 教授)

### 3.6 アンケート調査の実施

開催期間中、来場者計 71 名に対してファッションと美容に対するライフスタイルの意識調査を目的としたアンケート調査を実施した。<sup>2</sup>

### 4. 今後の展望

本プロジェクトでは、主に日常生活のなかでのファッションコーディネートやその購買行為、そして美容促進にまつわる社会的なニーズを調査し、それらを支援するユビキタスサービスの提案とそのシステムを実装した。そして、本プロジェクトの成果報告として、都内にて展示会「おしゃれ展」を開催し、外部より大きな反響を得ることが出来た(本プロジェクトに関する記事は「関連記事」を参照のこと)。今後は、さらなる社会的ニーズの分析と実用化を踏まえ、民間企業または他の研究室との共同研究を実施していく予定である。また、最終的にはこれらの成果を実社会に対して還元していくことを目標とし、本研究における産学連携の方向性を継続して示していく。

### 5. 謝辞

本プロジェクト実施において、その研究遂行に協力頂いた安村研究室(Interaction Design Project)の教員・学生の皆様、フィグラ株式会社の皆様、講演会の招待パネリストの皆様、そして約 100 名にのぼる「おしゃれ展」にご来場頂いた皆様にも感謝したい。

本研究は、2007 年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」、2007 年度学术交流支援基金の支援の下に行なわれた。

### 関連記事

- 森山和道, おしゃれな IT はありえるのか〜慶應安村研「おしゃれ展 ~私をキレイにするユビキタス」レポート, Robot Watch (オンライン), <<http://robot.watch.impress.co.jp/cda/news/2008/02/19/908.html>>, (参照 2008-02-19).
- 山田祐介, テクノロジーがおしゃれをアシストする近未来——「おしゃれ展」, IT Media(オンライン), <<http://plusd.itmedia.co.jp/d-style/articles/0802/15/news102.html>>, (参照 2008-02-15).

<sup>2</sup> <http://oshare-ten.jp/fashion-questionnaire.pdf>